



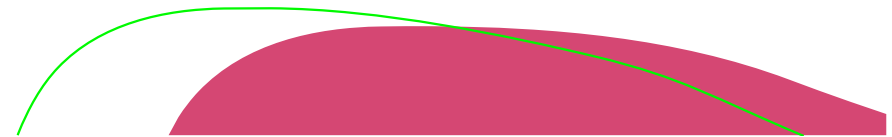
オンラインサロンから派生 する価値共創 -個人知の融合を促進する コミュニティとは-

甲南大学マネジメント創造学部
青木慶



報告内容

- 研究の背景と目的
- 調査概要
- 調査結果
- 結論とインプリケーション





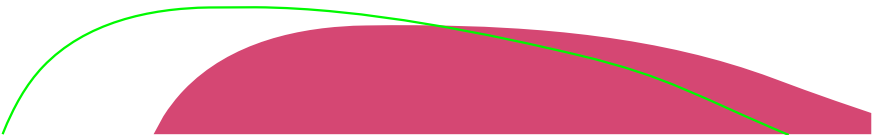
研究背景

- 「個人知*を活用しきれていない」という問題意識

*個人の持ち合わせる知識や経験

e.g. ユーザーイノベーションの普及における市場の失敗

(de Jong, von Hippel, Gault, Kuusisto & Raasch, 2015; von Hippel, DeMonaco & de Jong, 2017)

- スキルシェアはひとつの解決策ではないか
 - スキルシェアへの参画は、経済的価値に加えて**ウェルビーイング（持続的幸福度）**の向上をもたらす（青木, 2023）
- 

知識を「活用」することの意義 (青木, 2023)

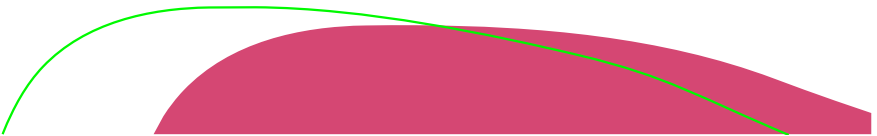




研究目的

個人知の共有から、価値共創*を実現
するプロセスを明らかにする

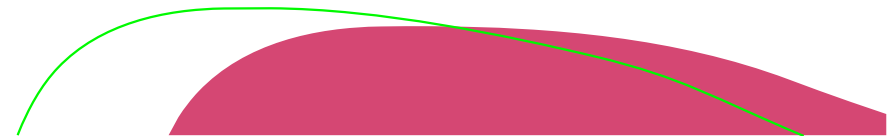
*個人知の融合によって生まれる「集合知」から、
アウトプットを生み出すこと





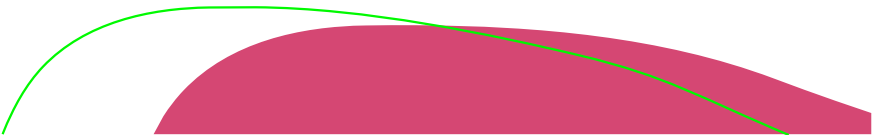
リサーチクエストション

オンラインサロン（≡クローズドのコ
ミュニティ）は、共創コミュニティ
として機能しうるのか





調査概要

- インタビュー調査
 - 対象者：オンラインサロンに所属し、能動的に活動している人 (n=11)
 - スノーボールサンプリング
 - 半構造化インタビュー
 - オンラインサロンに参加した経緯
 - 活動内容, そこから得るもの
 - 自身にとってのオンラインサロンの位置付け
 - 今後の意向
- 

分析方法：GTA

インタビューデータ(158,016字)

コンセプト(135)：インタ
ビューデータを切片化

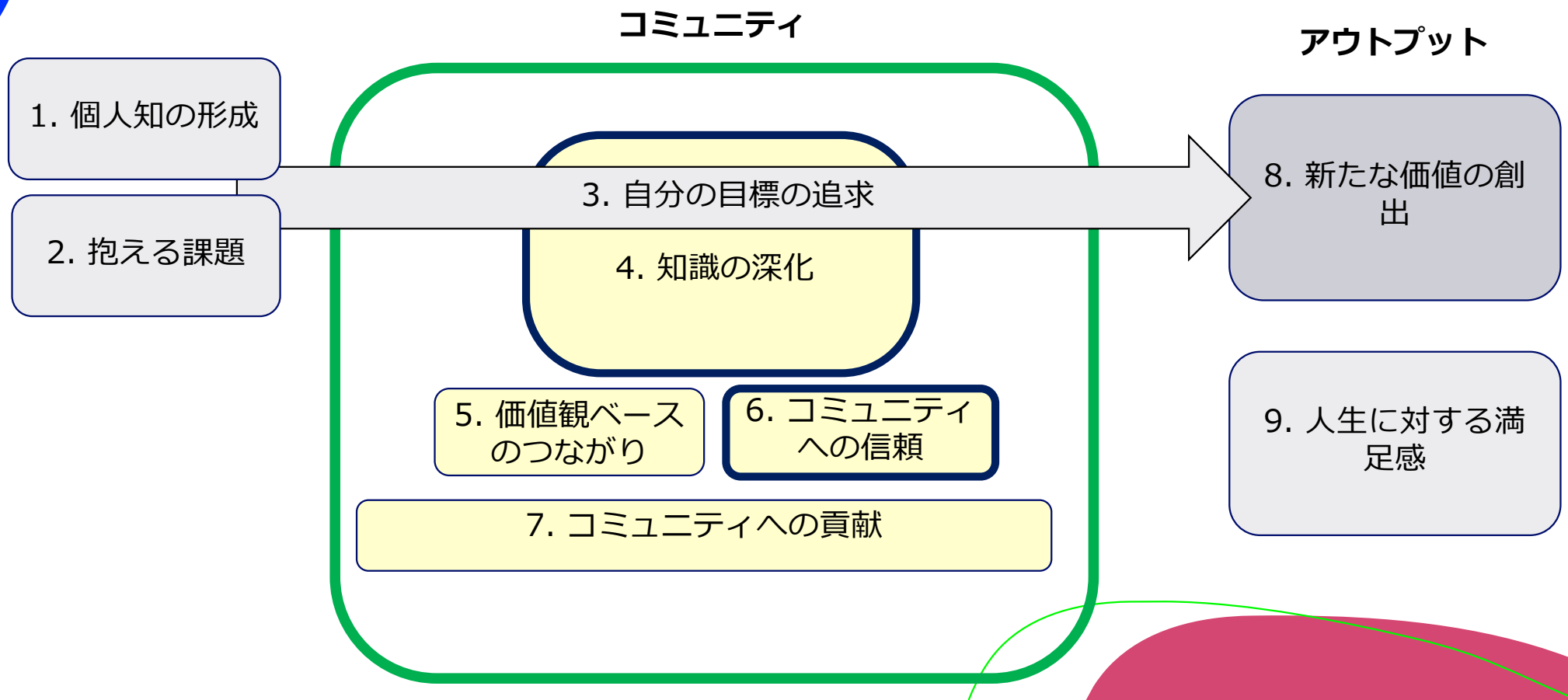
関連性の高いコン
セプトをまとめて
上位概念抽出(33)

抽象化する上
位概念を抽出
(9)

価値共創の実現

Strauss and Corbin
(2014)の手順に基づいて
実施

分析結果：1次カテゴリー



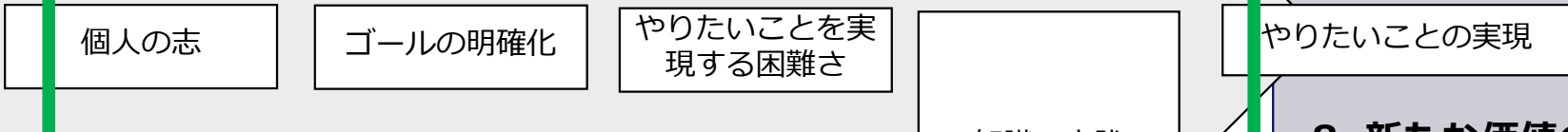
1. 個人知の形成

- 自己の尊重
- 外向的
- 知的好奇心旺盛
- 金銭的投資を厭わない
- 蓄積された知識・経験

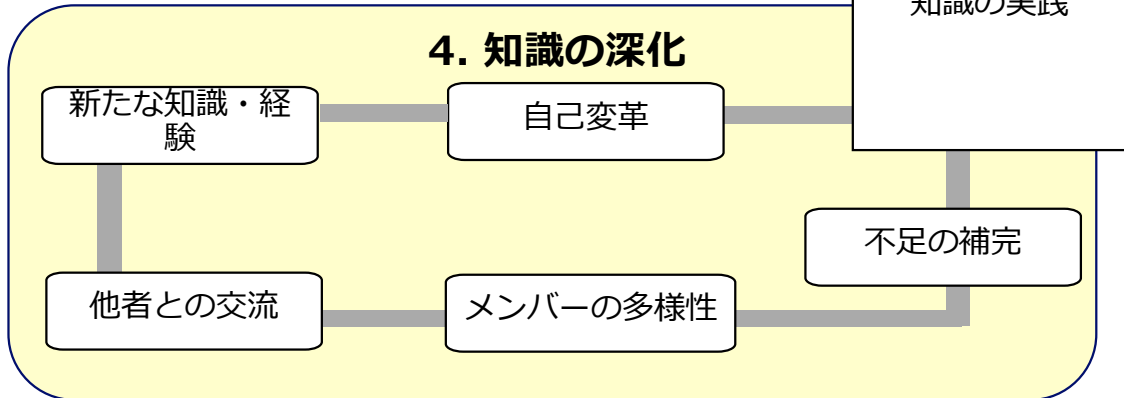
2. 抱える課題

- 自己の抑制
- 満たされていない状態
- 私的な悩み・課題
- 仕事上の課題
- 社会に対する課題意識

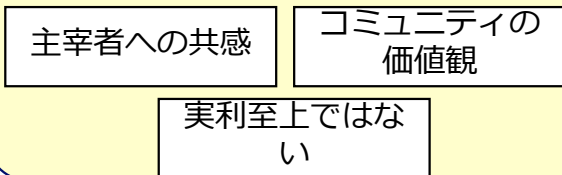
3. 自分の目標の追求



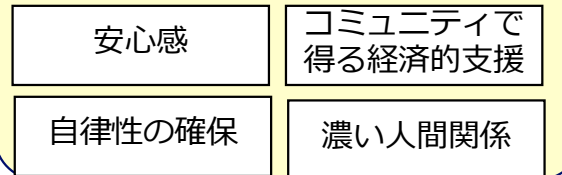
4. 知識の深化



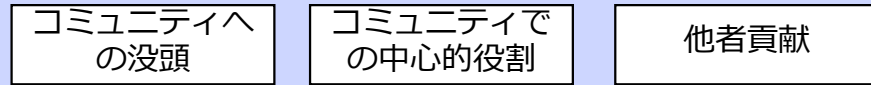
5. 価値観ベースのつながり



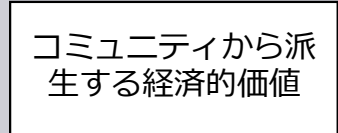
6. コミュニティへの信頼



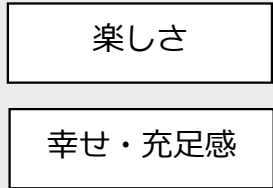
7. コミュニティへの貢献



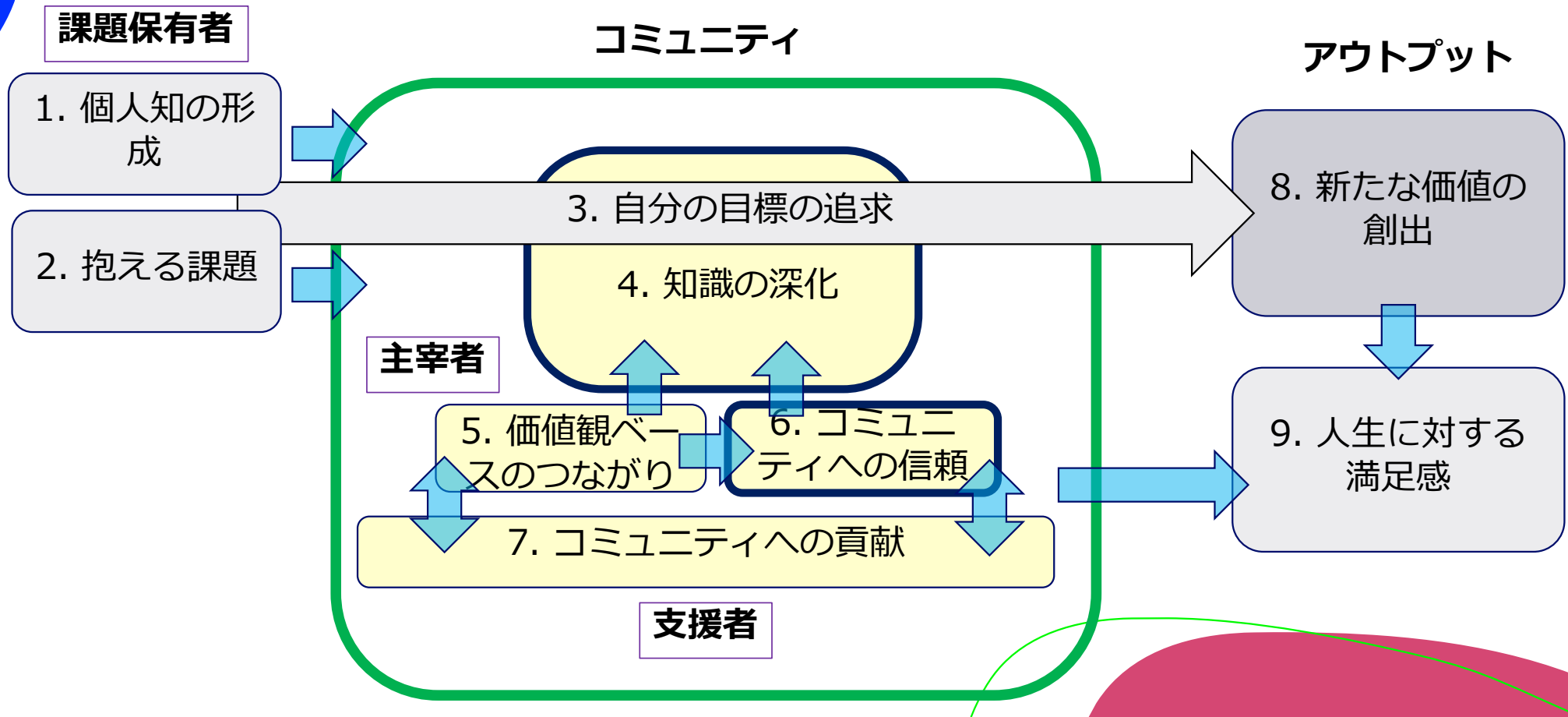
8. 新たな価値の創出



9. 人生に対する満足感

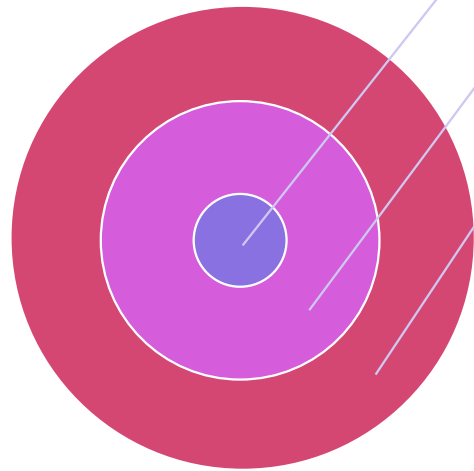


分析結果：カテゴリー間の相関図



結論：オンラインサロンは共創コミュニティとして機能しうる

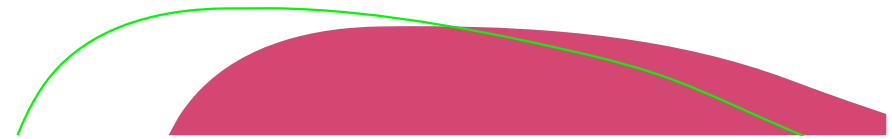
個人知の融合によって生まれる「集合知」から、
アウトプットが生まれていた！



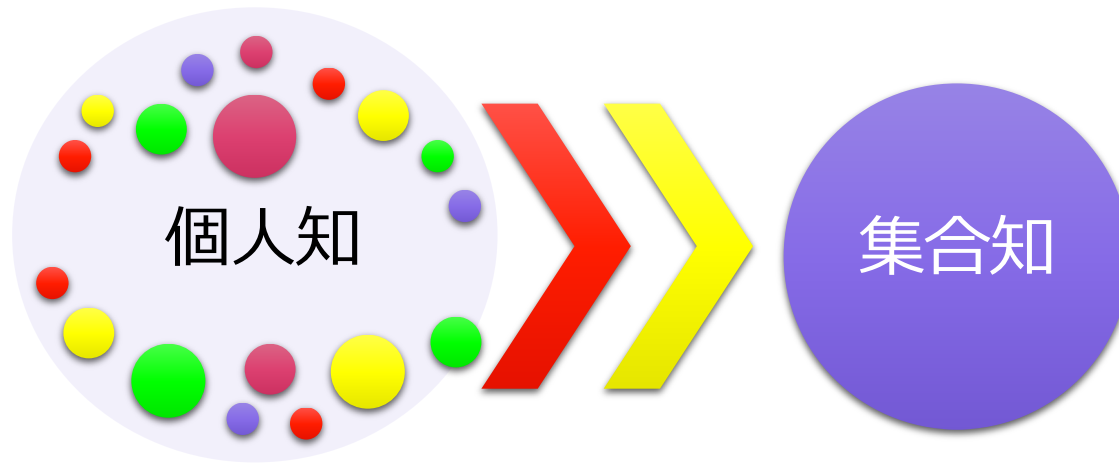
主宰者：コミュニティの核となる価値観を提示

課題保有者：自身の目標を達成するために他のメンバーの知識を融合し、自身の知識を深化

貢献者：自己開示を促す「場づくり」

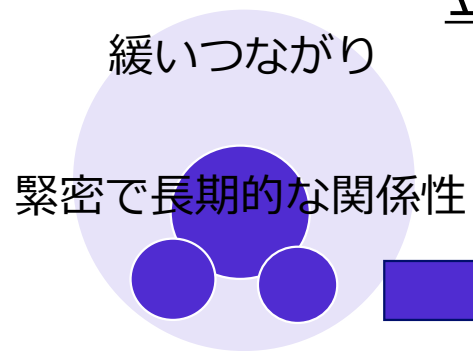


インプリケーション

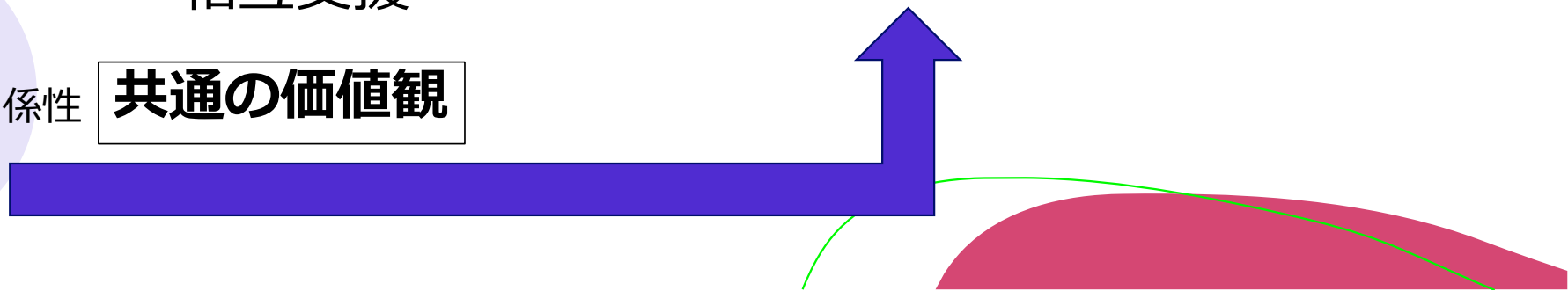


金銭的・非金銭的
相互支援

価値共創



共通の価値観





主な引用文献

青木慶 (2023) . 『スキルシェアのすすめーなぜ知の共有がウェルビーイングを向上させるのか』 千倉書房

De Jong, J., von Hippel, E., Gault, F., Kuusisto, J. & Raasch, C. (2015). Market failure in the diffusion of consumer-developed innovations: Patterns in Finland, *Research Policy*, 44(10), 1856-1865.

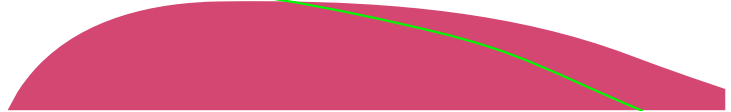
Shah, S. K. (2006). Motivation, governance, and the viability of hybrid forms in open source software development. *Management science*, 52(7), 1000-1014.

Strauss, A. L., & Corbin, J. M. (2014). *Basics of qualitative research: Techniques and procedures for developing grounded theory*. Newbury Park: Sage Publications.

von Hippel, E. (2005). *Democratizing Innovation*, MIT Press: Cambridge, MA. (サイコム・インターナショナル監訳(2006). 『民主化するイノベーション』ファーストプレス)

Yu, X., & De Jong, J.P.J. (2024). An identity perspective on the diffusion of user innovations in the household sector. *Research Policy*, 53(4), 104986.

本研究はJSPS 科研費 22K01759 の助成を受けたものです。





青木 慶
aoki@konan-u.ac.jp